コスプレイジメ

AM

地霊殿の姉妹やペットを
自由に抱きながら
幸せに暮らす人間のお話

鼻を擽ぐる
珈琲の香り――

カチャ…

AM 6:45

深い微睡みから
覚醒へと導かれる

ハム…

朝一に会うのは
無償の愛を
捧げてくれる
最愛の存在

おはよう
ございます

よく
眠れましたか？

……
それはよかった

クス…

答えるまでもなく
彼女は
人の心を読み

一人で納得し
微笑みかけてくる

カップを一つ受け取ると香りが鼻を抜け頭が段々と冴え渡る

実に爽やかな朝であった

彼女が私の股座を弄り回そうとしていなければの話だが

ゴ

ゴ

もし？さとりさんや？何をしてらっしゃるのでしょう？

いえ……珈琲にミルクを入れるのを忘れてまして

ちょっと因果関係がわかりかねます

まぁなんと言いますか

「こちら」も朝は大変でしょう？

せっかくなので恋人らしく処理してあげようと思いまして♡

ああちなみに
私の手には
あなたのモノと

熱々の珈琲が
握られている事を
お忘れなく

ご無体な

単に朝だから血が巡っているのか

チュッ

それとも小さい子に朝立ちを処理させている情景に興奮してるのか

チュパ チュパ ジュルル

どちらにせよいつもより早めの射精を余儀なくさせる

真っ白な欲望をクチュクチュと楽しそうに口内で弄んだ彼女は——

しばらくの後
自分のカップにへと
精液を吐き出した

朝食も摂り終わり
各自今から
起きてきたり
お勤めに向かったりと

意外にも
自由気ままな
地霊殿の生活が
見え始めていく

カチ
カチ

AM 7:48

しかし
彼女たちは
皆揃って

チュッ♥

チュッ♥

チュッ♥

朝の口付けだけは
欠かさずに
求めてくるので
応えてやる

以前は朝から
身体を重ねることも
少なくなかったが

さとりが
節制するよう
言い聞かせてから
無くなった

さとりだけが
こっそり
求めて来る時も
あるのは秘密だ

地霊殿での
お仕事が始まる

主に彼女の側で
事務仕事の
簡単な手伝いをするのが
おおよそ毎日の業務だ

AM 9:21

仕事の場でも恋人と二人きりという環境は――
彼女にとって願ったり叶ったりなのだろう
ただ――
ズニュッ…♡
ズッ…♡
ズニュ♡
ドサッ…
10

二人っきりなのは彼女の視界の範疇での話なのだが

最初から居たのに気づかなかった訳は無く

無意識下に股座へと潜り込んだこいしに愚息をしゃぶられる

ぱくっ

チュッ

チュッ

チュッ

…あなた？
どうしました？

い…
いや……

大丈夫…

うっ…

チュプ

チュプ

ガク

ガク

です……

うあっ……

から…ッ！

あまり反応すると
さとりに感づかれる事を
分かっている上で

苦しいだろうに
喉奥まで使って
ずっぽりと
愚息を咥えてくる

ニウ…

小さい舌が
ねっとりと絡みつき
絶頂を促し

ビクッ

ビクッ

根本まで
飲み込まれた愚息から
こいしの食道へと
精液が送りこまれる

ゴクッ

ゴクッ

流石に限界だったのか口内で受け止めきれず

ぷぁっ

ドバッ

愚息から口を離したこいしに欲望が飛び散らかる

……大丈夫そうではありませんね

少し休憩をいれましょうか

そう言うと彼女は席を立ち

よいしょ…

こちらの机へと身体を乗り出して

……どうぞ

お好きなように

どうぞと言われましても

こいしもいつまでもそこに居ないで出て来なさい

ドーンテロラ

……そもそも隠し事ができないなんて分かりきってることでしょう

ほら……

AM 9:49

ドキン

ドキン

ドキン

ドキン

遠慮しないで構いませんよ

さとりの
折れそうなほど
細い腰を鷲掴みにし

幼い秘裂を
こじ開けるように
挿入する

ヒクッ

ヒクッ

ヒクッ

ズチュ…

何度か抽送を
繰り返した後
一旦引き抜き

今度は
こいしの秘裂に
狙いを定める

ツプ…

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

机に押し潰すような
格好で最奥まで
突いてやると

パーン

パーン

パーン

パーン

見る見るうちに
快楽へと
飲み込まれて
いくのが分かる

ぬっ

ぬっ

姉と妹の膣内の感触の違いを味わいながら

欲望のまま互いの秘裂へ交互に挿入する

突く度にぶらりぶらりと動く浮いた足はまるで人形のようで

姉妹を性処理道具のように扱っている感じがして興奮する

好き勝手に腰を打ち付けた後
二人の腟内へ欲望をたっぷりと注ぎ込んだ

ゴプ…♡

ドロォ…♡

二人は子宮まで精液で満たされた事に快びの嬌声を漏らしていた

AM 10:31

チュパ…♡

チュル

行為を終えた後
二人にお掃除してもらう

顔と同程度の大きさもある愚息にこびりついた精液を姉妹で取り合うかのように舌を這わせてくる

ペロペロ…♡

二人の頭を優しく撫でながら背徳的な光景と快楽を十分に堪能した

放っておけば
ずっと解放して
くれなさそうなので

仕事を理由に
なんとか
二人から抜け出す

コンコン

報告と
連絡つい でに
お燐の元へ

AM 11:06

おや、お兄さん
お疲れ様ー

ガチャ

報告書と
連絡要項
届けにきたよ

ういういい
そこら辺に
置いといてー

まぁお茶でも
淹れるから
ゆっくり
していってよ

ドサッ

朝からの営みで
身体が結構
重かったので
お言葉に
甘えさせてもらう

ソファに
深く腰を降ろし
息をつくと——

ドーン

お隣がそのまま流れるように膝へと乗り上げてくる

頬を擦り付けてしばらくの間は動かないぞと間接的に宣言された

ドキッ

スリスリ

一言何か言おうとすると

そのまま口を塞がれなし崩しにソファへ押し倒された

チュッ…

さっきまで抱いていた姉妹には存在しない

ムニュ

膨よかな双房がふにょんと押し付けられつい興奮してしまう

手はふくよかな胸に導かれ

キスもより一層激しいものになる

このまま抱いてしまおうと姿勢を動かそうとした時――

あ!!!

お燐ダメだよー!

さとり様から勝手にえっちしちゃダメって言われてるのにー!

お空う……

もー恥ずかしい

ちゃんと
お仕事しないと
ダメだよー

またさとり様に
怒られちゃうよ？

いやいや
あたいが
サボってる
わけじゃあないさ

お兄さんが
職場の立場利用して
身体を要求してきたから
仕方なく
応えてるだけだよ

息をするかのように
評価を落とされた

というか
お隣さんや
それだと結構な
最低野郎なんですが

姉妹両方
お手つきにしてる
時点で何言われても
文句言えないよ
お兄さんは

そうだ
お空も混ざりなよ

お兄さんも
その方が嬉しいってさ
業務上の命令だから
大丈夫大丈夫

まー巻き込んじゃえばいっか

うん！
それなら
混ざるー！

少しお燐に
物申したかったが

ま、
えっちな匂い
させながら
人の仕事場来る方が
悪いってことで

後ろからお腹を抱え上げ待ち構えていた愚息で貫く

匂いに当てられていたからか既に秘所は十分に濡れており

身体をビクンと跳ねさせつつも最奥まで柔らかく迎え入れてくれた

時折漏れる蕩けた鳴き声を楽しみながら

身体を隅々まで愛撫し膣内を犯していく

はーい
お兄さん♡

おっぱいだよー♡

ジュル…

服を肌蹴させ
無邪気に
乱入してきたお空が
豊かな膨らみを
目の前につきつけてくる

たわわな実りを
口いっぱいに頬張り
乳首を舐り
夢中でしゃぶりあげる

美味しいの？

くらくらするほどの
甘い香りと味が
頭一杯を支配して
蕩けるように心地よい

彼女たちの献身的なご奉仕に五感も愚息も快楽に包まれ

射精に導かれるまでそう時間はかからなかった

各々が絶頂を迎え身体をびくびくと可愛らしく撥ねさせる

抱かれるのをねだってくる二人を両脇に抱えピロートークを楽しんでいると

遅いと思ったら――

げ

お仕事中に随分と楽しんでいるようで

ズバッ

ゴゴゴ

……ところでお話があるのですが

さとりさま。

あ

PM 12:00

……お空を抱いた後でもいいですか？

構いませんよ

ではお燐その間に貴女とのお話を済ませましょうか

……にゃーん

この後お空を抱いて二回射精した後お昼ご飯は抜きになった。午後の業務が憂鬱である。

コメイジスケジュールAM

2017年 12月29日 初版発行
コミックマーケット93

発行・制作

みどりね

みどり
http://www.pixiv.net/member.php?id=76139

midori0014@gmail.com

印刷

栄光印刷

謝辞

ZUN(上海アリス幻樂団)

みどりね